

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

76

宮崎 勝己

駐車場の旧水槽



白浜水族館駐車場の左手奥に、古びた水槽が2基ぽつんと置かれている。この水槽は決してうち捨てられているわけではなく、立派な展示物なのだ。説明文にある通り、1935〜81

年に第2水槽室で実際に使われていた水槽群の一部である。

この旧水槽であるが、現在主流のものと大きく異なる点がある。一つは窓の素材。昨今の主流であるアクリル樹脂に対してガラスを使っている。アクリル樹脂はガラスに比べ、透明度と強度の点で大きく優れている。軽量で衝撃に強く、万一割れても破片が飛ばないといった

1981年まで使われていた水槽。奥左側に見えるのが鉛管の名残（白浜水族館駐車場）

水槽に見る水族館の進化

長所も兼ね備えている。白浜水族館では93年に行われた大改装時に、第1・第4水槽室の大半の水槽がアクリル樹脂製のものに替えられた。一番大きな240cm水槽の窓は、高さ約2・5m、幅約6m、厚さ約12cmのものが2枚使われている。ガラスでこれだけのものを作ろうとすると、強度を得るためにさらに分厚いものとなり、緑がかって中の様子がよく見えなくなるだろう。

水族館にとって理想的に見えるアクリル樹脂であるが、傷つきやすいという欠点がある。そのためインゲイやインガキイ、ペラ類といった強力な歯を持つ魚については、今でもガラス水槽が好まれる。

もう一つの相違点は給排水管の素材で、旧水槽のそれは鉛管を使っており、駐車場の水槽でもその名残を見ることができ。鉛は腐食しにくく、柔らかくて加工がしやすいため、かつては水道管などの素材としても広く使われていた。しかし、微量の鉛でも水に溶け込むと、水生生物の発生に影響を与えることが知られており、今はそのような心配のない塩化ビニール管を使っている。ただ塩化ビニール管には衝撃に弱いという欠点がある。阪神大震災の時、神戸市の須磨海浜水族園では、水槽は無事だったが給排水管が破損、水漏れして飼育生物に多大な損害を与えた。

言うまでもなく水槽は、水族館になくてはならないもの。長い水族館の歴史の中で、水槽はかくのごとく進化してきた。今後よりよい飼育と展示を目指し、さらなる進化を遂げていくのである。(京都大学講師)